

2023年(令和5年)3月31日発行

No. 18

公益社団法人 日本山岳会 山形支部

支部長 鈴木 理夫

事務局 〒997-0752

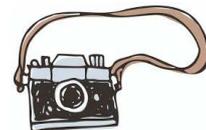
鶴岡市湯田川乙 35 河口 昭俊 方

メールアドレス : ymg@jac.or.jp

編集 : 日向 稔也

目 次

1	支部長あいさつ 滝の小屋の看板について	No.11637	鈴木 理夫	p1
2	新会員・自己紹介	No.A0458	板垣 悦子	p2
3	追 悼 菊地俊彦さん	No. 9166	梅津 博	p3
4	活動報告 蔵王害虫被害調査登山 古道調査・蔵王古道 「山の日」全国大会 公益清掃登山・芋煮会 支部晚餐会 樹氷原を滑る会 「学校から見える山」 鳥海山へのスノーモービルの乗り入れについて (山形支部の考え方、佐藤 要 氏の寄稿)	No.A0418 No.15785 No.15525 No.16509 No.16798 No. 7915 No.16287	佐藤 明 佐藤 一広 河口 昭俊 高橋 利明 沼部ひろみ 小林 政志 工藤 正年	p4 p5 P6 p7 p8 p9 p10
5	山形支部及び会員の活動記録	No.15525	河口 昭俊 (事務局長)	p16



支部長あいさつ

会員番号 11637 山形支部・支部長 鈴木理夫

支部長として二期目を迎えましたが、今年度は1年を通じて幸いにもほぼ予定通り活動することができました。新型コロナの感染拡大前は当たり前のことでしたが、当たり前の有難さをしみじみと感ずることができた1年間でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。オンラインで会議はできても登山はできません。一緒になって山を登り、寝食を共にすることでこそ成り立つもので、行動を共にするメンバー相互の交流が、登山活動及び山岳会にとって欠かせない大切な要素であることを改めて感じさせられました。



今年度特筆すべきことを紹介しておきます。置賜地区での活動は会員がほとんど存在しなかった関係で、県南部置賜地区で晚餐会を開催したことはありませんでした。今年度、小野川温泉で初めて支部晚餐会の開催及び米沢市を見下ろす兜山の登山、天元台でのスキーを実施できたことです。山形支部の名に相応しく全県を活動範囲とする山岳会を実現できました。尽力いただいた沼部会員夫妻に心より感謝申し上げます。

また、8月に山形市を中心に開催された「山の日全国大会」において山形支部として、「学校から見える山」の展示を行ったことも、印象に残るものでした。販売を中心としたブースが多い中で、山形の山をアピールする内容は「山の日」に相応しい内容だったと思います。また、今まで作成した「鳥瞰図」・「展望図」を一同に並べてみると、壮観で本部会報の「山」9月号でも記事として写真入りで取り上げていただきました。最初は支部長・事務局の2名で対応できるのではとの甘い考えだったのですが、有志のご協力を得て何とか終わることができました。山の日との関わりが深い日本山岳会の支部として、初の展示を行ったことになりました。「山の日全国大会」副実行委員長の小林前日本山岳会会長から、支部の展示ブースに足を運んでいただき、そのことをきっかけとして、山形支部の会友になっていただきました。その他本部を始めいろいろな方とお話する機会となったことも、今後の活動の財産となるものでした。

新準会員の加入、初めて支部行事に参加する会員が目立ったことも、支部行事を活性化させる要因になりました。6月の蔵王の古道調査、10月に鳥海山山雪荘協の屋外で行った芋煮等楽しい支部行事になりました。会員数の減少と高齢化の課題が解消されたとはまだ言えませんが、次年度以降につながる流れが少し見えたような気がいたしております。

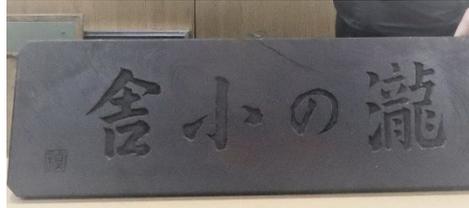
新型コロナの影響で、開催出来なかった宮城支部との交流は日帰りでしたが、実施することができ、樹氷原を滑る会もアルパインスキークラブから参加を得て開催することができました。

最後に、1950年に創立された山形支部は今年で創立73年目を迎えます。昨年12月の本部晚餐会の壇上で佐藤淳志元支部長（1972年入会）が新永年会員のバッジを授与

されました。改めてお祝いすると共に、本部・支部活動への半世紀に渡るご功績を称え支部長のあいさつといたします。

<滝の小屋の看板について>

鳥海山の滝の小屋は昭和26年に建設されました。風雪により老朽化したため現



在の滝の小屋は昭和62年に立て替えられたものです。先代の滝の小屋の看板は、日本山岳会の4代・7代会長の榎有恒氏(※)の揮毫によるものでした。滝の小屋は大平の小屋と共に、昭和27(1952)年度の国民体育大会が鳥海山を会場に行われることにより建設されました。榎氏がこの国体の大会会長を務めた関係で、この看板が依頼されたのではないかと推測されます。現在の小屋になり看板は片隅に置かれた状態になっていましたが、青森在住の高橋毅会友のご尽力により、遊佐町から日本山岳会に寄贈されることになりました。昨年6月に本部で贈呈を行い、この看板は本部資料室にて保管されています。※ 榎有恒(Maki, Yuko) 4代会長(1944-1946) 7代会長(1951-1955)

よろしくお願ひします

準会員番号 A0458 板垣悦子

2022年6月、日本山岳会山形支部に準会員として入会した板垣悦子です。出身は岡山県です。山形県での暮らしは40年を過ぎました。当初は言葉が理解できませんでしたが、鶴岡と酒田の言葉の違い、庄内弁と内陸弁の区別ができ、いつの間にか東北弁は大体分るようになりました。



高校時代は山岳部に所属していたものの、卒業後、山は眺めるだけでした。今は一日でも多く山に身を置き、時間を取り戻したいという想いで山に臨んでいます。

昨年は、蔵王古道調査登山と公益清掃登山に参加させていただきました。蔵王熊野岳も鶴間池も訪れたい場所であり、大いに感動しました。お会いできた先輩会員の方々のお話はとても新鮮です。積み重ねてきた山での幸福な時間をそれぞれお持ちで、人の幅となって表れているように感じました。これからご一緒させていただけることを嬉しく思います。

山以外の趣味は植物を育てること、特技は小さな幸せを見つけることです。これからどうぞよろしくお願ひします。

菊地先生は私の2年後輩ではあるが、山でも日常でも「先生」であった。同じ高校の山岳部時代は一緒に活動したことがなかったが、卒業後、面識を得てから濃密な往来が始まったのである。

当時私は、故加藤達男さん（会員番号 3164）と一緒に山を楽しむことが多かったが、菊地先生も仲間になり、山行きのみならず「古」のつくもの好きが似かよって、古陶磁をはじめ、絵画、工芸の展示会は



逃さず、仙台、新潟、東京まで足を延ばしていた。中でも菊地先生のお茶は歴とした藪の内流を構えており、日本画は後藤紀一氏の直弟子で、山形近辺の日本画の宗匠は皆兄弟子という腕前であった。それだけではなく、生け花はもちろん工芸部門に至るまで、一廉の達人で目を瞠るばかりであった。

また、先生個人の趣味で、日常生活の中で音楽をよく聴くだけでなく、ピアノを始め、ギター等の楽器の弾き語りもしていた。芸術の中に生きる姿は恐れ入るばかりであった。山形交響楽団のコンサートは毎回欠かさなかったようで、楽団の活動資金等にも何らかの関わりを持っていたようである。これだけで私には一言もない、もう「先生」である。

山でも岩手山をはじめ、付近の山も楽しむ姿をたくさん見せてくれ、冬のスキーでも華麗な滑りを展開してくれた。さぞかし有名な師匠についたに違いないと思ったが、ついに聞かないまま終わってしまった。

次に、私個人と先生のつながりのひとつであるが、私の勤務の関係で爆薬・火薬の取り扱い免許保持者の安全教育を全国規模で行うことになった時、技術講師を選ぶことに苦労したが、岩手県の鉱山で発破などの経験のある先生を引っ張り出した。当時山形では、寒河江ダム等の工事が繰り広げられていた時期であり、県内 1000 人有余の免許保持者の講習が先生のおかげで無事終了したことには一生の恩を感じている。

先生との関係はそれだけにとどまらず、私の娘が月山ビジターセンターのリニューアル工事に携わった時、火山の成り立ちや地質の説明など、先生に教えを乞うた。また、生物、植物については、故佐藤誠二氏（会員番号 10643）に取材をし、両先生のおかげで仕事を遂行することができた。残念なことに両先生ともすでに故人となってしまった。

最後に菊地先生と言葉を交わしたのは、「尾崎紅葉の『金色夜叉』を原文で読んでいるがなかなか難しい」という話だった。私ももう少しで同じ籍に入ると思うが、100年近い



年月の間に蒐集したものを前に、『金色夜叉』のその後の行方と古い知識を語り合いたいと思っている。

▲新潟北方美術館（左 菊地先生、右筆者） ▲山岳会の山行き・雁戸山（右 菊地先生）

蔵王害虫被害調査登山

会員番号 A0418 佐藤 明

アオモリトドマツ（オオシラビソ）は冬の蔵王を象徴する樹氷（アイスモンスター・スノーモンスター）を構成しますが、近年は害虫の影響によって立ち枯れ被害が拡大しています。

2022年5月21日に、その実態確認のための登山を行いました。当初は被害地でアオモリトドマツの稚樹が成長しているかの調査も予定していましたが、諸事情により規模を縮小し、地蔵岳一帯の被害地観察としました。

行程は、蔵王ロープウェイ山麓駅～（ロープウェイ乗車）～ 地蔵山頂駅【生育試験地見学】～三宝荒神山・ザング坂【被害地観察】～ 中央高原散策～五郎岳～ドッコ沼～ 中央高原駅～（スカイケーブル乗車）～上の台ゲレンデ駅～蔵王ロープウェイ山麓駅です。

ロープウェイに乗車し、山頂に近づき立ち枯れとなったアオモリトドマツの被害が見えてきた時、また三宝荒神山に登頂し地蔵岳全体を臨んだ際に、参加者の多くの方がその被害の深刻さを感じられたと思います。

地蔵山頂駅付近では、アオモリトドマツの生育試験地があり、その試験中の様子も見学しました。生育試験は周囲の笹が狩り払われたて行われています。笹に覆われている状態でもアオモリトドマツの稚樹は生育できるかは、今回の登山で調査できませんでしたが、大いに気になるところです。

被害地観察の後には、中央高原を散策し五郎岳に向かいました。行程のほとんどが山下りなので、息も上がりず参加者の会話も弾みます。五郎岳周辺は残雪が残る美しい新緑のブナ林を歩くことができました。

五郎岳登頂後、ドッコ沼を経由しスカイケーブルで下山し、今回の登山は終了しました。規模を縮小しての行程となりましたが、初めて当会行事に参加した私も楽しい山行となりました。

最後に、最近の冬の樹氷についてお知らせします。地蔵岳付近における樹氷の様子は、害虫被害により過去とは異なっています。幹に着氷して樹氷にはなりますが、着氷する葉が無いので、スケールは小さく、また枝が飛び出ている、以前の様な美しさはありません。しかし、刈田岳周辺では、地蔵岳ほど被害が拡大していなく、以前の様な樹氷を見ることができますので、樹氷観察は、ライザスキー場ゲレンデから少し登った箇所にある御田ノ神避難小屋周辺に行かれることをお勧めします



蔵山頂駅付近にて



三宝荒神山山頂にて

蔵王古道調査

会員番号 15785 佐藤一広

古道調査、今年度は蔵王古道を実施した。2回に分けての計画である。1回目は、6月18・19日、「蔵王古道宝沢口」からのルート。参加者は、木村喜代志、會田茂雄、鈴木理夫、河口昭俊、武田幹男、佐藤一広、日向稔也、板垣悦子の9名。天候に恵まれ、気持ちの良い山行でした。

6月18日(土)、宝沢登山口から山形山岳会山小屋まで。青春時代、このルートの経験がある木村さんは、懐かしそう。他の面々は、少々ハードと聞かされていたので、期待と不安、半々の思いで出発。杉林は枝打ちされ美しく、整備されている。登山口から100mほどに万年堂がある。進んでゆくと、行別れ地蔵。さらに進むと、冷水流れる垢離場である。心身を清め蔵王参詣に向かったという。ノビネチドリが見ごろ。右側に丸太橋がかかっている。三本のうち一本は折れ、なかなかスリリングな橋である。渡渉を選択。

出発して約四時間半。不動滝、荘厳で美しい。少し登ると平坦で歩きやすくなる。一帯がブナの美林である。もうすぐ独鈷沼、今日の宿泊場所「山形山岳会山小屋」も間近である。結構ハードだが天候にも恵まれ爽快。新入会員の板垣悦子さんは元気そう。

山形山岳会山小屋到着は午後3時半頃。會田さんの友人である「蔵王山岳パトロール隊長 山口勝美氏」による蔵王古道を中心とした講演。お土産にクマ肉を頂き、公演の後は、山小屋の雰囲気も相まって交流とリフレッシュできる楽しい一夜となった。

6月19日(日)山形山岳会山小屋から熊野岳・蔵王山神社までのルート。山小屋を出発し、ゲレンデを横切り、車道に出たのち、右に50mほど車道を歩くと紅葉峠。

花咲き乱れ風光明媚な所が紅葉峠。懺悔坂は紅葉峠よりトニーザイラー頭石碑を通過して、懺悔坂に至るまで急登。自ずと懺悔の気持ちがわいてくる。坂手前からイワカガミの群生が見ごろであった。懺悔坂ではハクサンチドリの群落が次々と現れ、登りの辛さが軽減された。地蔵尊はミネザクラが満開。ワサ小屋跡は、熊野岳山頂に到る参拝道。おワサさんという老婆が、参拝者の面倒を見ていたといわれている。熊野岳・蔵王山神社、緩やかな台地のような尾根に社殿がある。ここは蔵王連峰の主峰。疲れましたが達成感のある山行でした。眺望がすばらしい。

県内の主な山々が見渡せる。

2回目は7月16日(土)。参加者は、木村、鈴木、河口、佐藤、日向、沼部夫妻の7名。蔵王苜田レストハウスに集合し、まず、宮城支部(富塚宮城支部事務局長他4名)との交流会。支部の現状や古道調査などについて、あ情報交換をしました。しかし、計画していた刈田岳から熊野岳への現地調査は残念ながら悪天候で中止となりました。



山形山岳会山小屋にて



レストハウス前にて、宮城支部参加者と

第6回「山の日」全国大会やまがた2022
山形支部企画「学校から見える山」イラスト展示

会員番号 15525 河口昭俊

8月11日が国民の祝日「山の日」として制定された2016年（平成28年）から、毎年「山の日」（記念）全国大会が開催されてきました。2022年は第6回大会、山形県開催でした。山の日8月11日、山形市のやまぎん県民ホールにおいて記念式典や小林綾子さん等のトークイベントなどが行われました。

山形支部でも「山の日」制定の記念事業として、2016年から「学校から見える山」イラストプレゼント事業を毎年行ってきており、これまでに制作したイラスト作品は計10点にのぼります。これらを「山の日」全国大会当日に展示し、来場者に対して山形県内の山々を紹介するとともに、山形支部の活動をPRすることとしました。

当日、会場のやまぎん県民ホール前広場には「歓迎フェスティバル」と称して県内の特産品やグッズの展示・販売、グルメ販売等のブースが設けられ、「日本山岳会山形支部」のブースに、これまで作成したイラスト展望図、鳥瞰図10点を展示しました。特に、2021年度に作成した大岡山からの展望図「朝日連峰、月山、葉山」は、今回の展示のために横の長さ2m40cmの拡大版をつくり、展示の目玉としました。さらに、折り畳み式展望図100部を来場者に贈呈・配布しました。たくさんの方々が山形支部ブースに来場し、熱心にイラストの山々を眺めている様子が見られました。

記念式典で開会宣言を行った小林政志・大会実行委員会副会長（日本山岳会前会長）も山形支部のブースを訪れてくれました。これを契機に、鶴岡市に転住した小林前会長とのつながりができ、山形支部会友として入会していただけることとなります。

また、今回の展示を契機に、山形支部が制作した作品を今後も様々な場所で展示し紹介していこうと計画しています。

なお、今回の企画・展示については、鈴木支部長が日本山岳会報「山」No.928号（2022年9月号）に記載しておりますので、そちらもご覧ください。



山形支部展示ブースの様子

公益清掃登山・芋煮会：秋晴れの鳥海山と芋煮会

会員番号 16509 高橋利明

10月1日から2日にかけて芋煮会と公益清掃登山を行いました。1日は鶴間池を散策し、山雪荘にて芋煮会を、翌2日は山雪荘から滝の小屋を経て河原宿を清掃しながら往復しました。

10月1日、天気は心地よい秋晴れでした。当初の計画では鶴間池周辺も清掃予定でしたが、清掃するほどのごみがないということで散策のみになりました。幼少期から鳥海山には何度も来ていましたが、鶴間池は初めてでした。また一つ鳥海の魅力を発見しました。ブナ林の静けさが鶴間池の美しさを引き立てているようでした。

山雪荘に戻り、水汲み、会場準備、調理等分担して芋煮会が始まりました。庄内風の味噌味と内陸風のしょうゆ味がありました。芋煮会は山雪荘の前にレジャーシートを敷いて行っていたのですが、料理のおいしさとお酒で話は盛り上がり、気づけば辺りはすっかり暗くなっていました。

10月2日も好天でした。朝食後、駐車場終点から滝の小屋を目指し、軍手をし、ごみ袋を持ち登っていきます。少し暑いくらいでした。滝の小屋を過ぎ、河原宿の方まで行ってきました。秋の植物の装いも愛でながら下山、清掃登山を終えました。

ごみは多くはありませんでしたが、ゼロであるべきものです。山への敬意を示すためにも、きれいな登山道から登山者の環境意識を高めていけたらと思います。



河原宿での集合写真



山雪荘前での集合写真



鶴間池までのアップダウン

『愛の兜』直江兼続が登った兜山 2022年度支部晩餐会
会員番号 16798 沼部 ひろみ

今年の支部晩餐会は、初めての置賜地区での開催ということで、米沢市南部に位置する『兜山』1199mと南陽市宮内の『秋葉山』561mを計画いたしました。兜山は江戸時代前期、米沢藩の家老直江兼続が山頂より城下を眺め、現在の米沢市の基礎となる町割りを決めたと言われている山です。米沢市を南北に貫く道路は兜山と一直線になっており「あの山は何だろう？」と子供心に不思議に思っていたものでした。



兜山山頂にて

11月5日(土) 道の駅米沢に集合し、登山口へ。林道を歩き、尾根に上がるまでの急登、さらに頂上までの急登が続き汗をかきました。頂上から米沢市内を見下ろして昼食、持参したナメコで味噌汁を振る舞い大変喜ばれました。一日目の山行を終え、今宵の宿小野川温泉ホテル山川へ向かいました。入浴後、楽しい晩餐会。日本山岳会前会長の小林さん、会友の高橋毅さん、山形支部の重鎮が揃い、手土産の銘酒が次々と注がれ皆さん良い気分。そして恒例のオークションが始まりました。今回は後藤彰会員の愛読書の数々が場を盛り上げ、さらに梅本幸巳会員の素晴らしい水墨画絵が値を吊り上げて大いに盛り上がりました。

2日目11月6日(日) 宿を出て御成山展望台を皆さんに案内いたしました。南に吾妻・東に栗子山から蔵王・北に朝日、月山を見渡せ、米沢市民には馴染みの場所です。その後、南陽市宮内へ移動。低山ではありますが、山形百名山でもある秋葉山は県内外から多くの方が登りに来る人気の山です。登山道はアップダウンのバラエティーに富んで、南陽山岳会の山小屋がある広場からは西に飯豊連峰の雄姿が見えうっとり。晩秋の山歩きは空気が澄んで心地良い風が気持ちいい。また置賜の山を歩きましょう。



小野川温泉ホテル山川にて



秋葉山山頂にて

2022 年度「樹氷原を滑る会」に初めて参加して

会員番号No.7915 小林政志（山形支部会友）

「樹氷原を滑る会」の報告をする前に、私が山形支部の新人会友となった経緯や自己紹介をしたいと思います。2015～2019 年まで日本山岳会会長を務め、2021 年末鶴岡市に義母の介護もあり移住をしました。2022 年夏、山形で行われた「山の日」全国大会のイベント広場に山形支部が「学校から見える山」のブース出展をしていて、その折り鈴木支部長と河口事務局長にお会いしました。その後 11 月の支部晚餐会に誘いを受け、山形の山仲間と知り合いたいと思い参加、会友になりました。支部活動の概要も知り、道産子のスキー好きで、鶴岡での雪かきだけではつまらないと今回この会に参加した次第です。



さて、2022 年度「樹氷原を滑る会」は 2023 年 1 月 19 日～21 日蔵王温泉スキー場のロッジスガノをベースに 2 泊 3 日、2020 年以來 3 年ぶりの開催となりました。参加者は山形支部のメンバーにアルパインスキークラブ（以降 ASC）も加わり 12 名が参加しました。

初日は珍しく快晴。支部会友で ASC リーダーの安井さん、多摩支部長の野口さん、酒井さん 3 名は午前中よりフル回転、午後からの活動組は木村さん、菅田さん、沼部夫妻と私は蔵王中央ロープウェイ周辺で滑り、16:00 受付ということで宿に戻ると野堀さん、河口事務局長、日向副支部長も到着済みで受付開始、硫黄泉の風呂を上がった後は床暖の談話室で食前酒、18:30 いよいよ開会式・懇親会・夕食となった。食後も談話室に場所を移して話は盛り上がった。

翌日 2 日目は青空も時折見える曇り空ではあったが地蔵山上部は雪雲の中だった。朝には粕谷さんも加わり 12 名全員で一緒にスキーを楽しんだ。蔵王中央ロープウェイ温泉駅を始発で出発、吹雪の中地蔵山頂駅で地蔵尊をお参りし、樹氷原を垣間見ながら黒姫グレンデへと蔵王スキー場の端からはしを存分に楽しんだ。私の経験からもこんなに広く開発されたスキー場は初めての経験でした。宿に戻りお風呂の後談話室でのスキー談義は夕食後も続きました。夜には雪が深々と降り翌朝には 20 cm 強の積雪となっていました。

3 日目は朝食後解散式。強風でもあり何名かは残って新雪を楽しんだようです。3 日間本当に楽しい、充実した会でした。広大なスキー場を効率よくコースを回れるようリードしていただいた木村さん、粕谷さん、12 名の集団のしんがりを務めていただいた沼部さんに感謝です。また宿や気配りのある準備・手配をしていただいた河口事務局長、日向副支部長にも感謝です。「一所懸命」と「おもてなし」の気持ちが充分伝わった会となりました。ありがとうございました。

なお、この会の様子は動画撮影野堀さん、ASC 安井さん編集で YouTube 動画が山形支部の HP にアップされていますので是非ご覧ください。

（蔵王温泉ロッジスガノにて、筆者上段左端）



日本山岳会山形支部プロジェクト事業
2022年度『学校から見える山』活動 経過報告

会員番号 16287 工藤正年

- 2022.05.24 ○「学校から見える山」プロジェクト事業費に充てるため、野堀さんが申請書等を作成し、「公益財団法人マエタテクノロジーリサーチファンド」に20万円の事業費補助を申請する。なお、今年度も河口事務局長より、JAC本部に対して特別助成金を申請し交付を受けることができた。
- 2022.06.11 ○第1回支部役員会で「学校から見える山」頒布状況確認（170部）
○役員会終了後第1回編集委員会 今年度の事業として、①第6回「山の日」の展示用に「学校から見える山2022」の拡大版の作成 ②昨年度贈呈した学校の次に大岡山に近い学校への贈呈 ③次年度の「学校から見える山—吾妻連峰—」制作のための準備を行うことにする。
○（株）北星印刷岩間さんに「学校から見える山2022」の2倍の拡大版の見積りを依頼する。
- 2022.06.26 ○岩間さんから見積書が届く。関係者に相談の上、予定価格内のため作成していただくことにする。
- 2022.06.28 ○拡大版の展示方法について、メールや電話等で相談。岩間さんから、テープ止めなどを想定して拡大版の上下左右に余白をとってはとの提案をいただく。
- 2022.07.04 ○「公益財団法人マエタテクノロジーリサーチファンド」から助成金申請が採択される。
○拡大版の額装について建具店や北星印刷に相談したが高額なため、鈴木支部長による手作りの額装にすることに。
- 2022.07.13 ○岩間さんから表紙の図案が届く。「イラスト 木山由紀子」を表紙に入れてもらう。裏表紙はつけないことにする。
- 2022.07.20 ○（株）北星印刷から最終校正図案が届く。
- 2022.07.30 ○（株）北星印刷岩間さんから拡大版完成の連絡。鈴木支部長に連絡する。
- 2022.07.31 ○編集委員に完成を連絡。支部長が（株）北星印刷に受け取りに行き、一部を木山さんに届けることに。※5枚 41250円
- 2022.08.10～11 ○第6回「山の日」全国大会やまがた2022の会場において、これまでの「学校から見える山」を展示し好評を得る。
- 2022.08.23 ○編集委員会の日程調整、9月7日に開催することに。
○粕谷さんから佐藤要さんを通して、木山由紀子さんに2023年度「吾妻連峰」の展望図作成を依頼してもらう。（仮称「学校から見える山2023」）
- 2022.08.26 ○粕谷さんに、木山さんから承諾の返事が届く。

2022. 09. 07○第 2 回編集委員会 会場：粕谷さん宅 参加者：鈴木支部長、河口事務局長、粕谷、野堀、木村、工藤

(1)「学校から見える山 2022」の再版増刷と贈呈先について

①500 部を再販増刷することにする

②贈呈先として A. 高等学校登山部の生徒と顧問の先生に

B. 天童市内の小学校一校程度の 6 年生に

③山形、天童市内の書店で委託販売する

(2)来年度の「学校から見える山—吾妻連峰—」作成に向けて

①イラスト：木山由紀子さん 監修：佐藤要さん

②展望図の概要 川西町ダリヤ園南側高戸屋山からの展望図

2022. 09. 07 ○北星印刷（株）岩間さんに「学校から見える山 2022」の再版と 500 部増刷について依頼する。後日、再度見積書をいただき正式に依頼。裏表紙に「2022 年 10 月 1 日 第 2 刷発行」と入れてもらうことに。

2022. 09. 13 ○鈴木支部長より高等学校体育連盟登山部生徒数と顧問の先生方の数と 10 月 8 日～9 日に開催される県高校新人大会で贈呈する旨の連絡を受け、岩間さんに完成時期等を確認する。

2022. 10. 05 ○北星印刷（株）岩間さんより再版増刷の 500 部が完成したとの連絡がある。270 部と 230 部に分けてもらい、230 部を工藤宛に送ってもらうよう依頼する。

2022. 10. 06 ○鈴木支部長が北星印刷から 270 部を受け取る。

2022. 10. 08～09 ○高等学校県新人大会登山部門が鳥海山を会場に行われ、鈴木支部長より 8 日に顧問の先生方に、9 日に各校登山部生徒に贈呈する。

2022. 10. 18 ○書店での委託販売の依頼に、粕谷さんと二人で山形市の「戸田書店」「熊沢書店」「こまつ書店」天童市の「宮脇書店」「八文字屋」を訪問する。「天童宮脇書店」で 10 部、「八文字屋」で 30 部を置いてもらうことに。他の書店は検討しますとのこと。手数料を 25 パーセントにする。

○粕谷さんと天童市内の小学校を回り山並みの見え方について検討し、「学校から見える山 2022」の贈呈先の候補を蔵増小学校とする。支部長はじめ編集委員にその旨連絡し了承を得る。

2022. 10. 20 ○天童市教育委員会学校教育課長に電話し、蔵増小学校に贈呈することについて了承を得る。

2022. 10. 22 ○粕谷さん、佐藤要さんと「学校から見える山 2023」のために下小松山古墳にロケに。※最終的に南陽市立梨郷小学校裏山の竜樹山の山頂付近からの展望図となる。

2022. 10. 25 ○天童市立蔵増小学校渡辺校長に電話し、28 日に訪問し贈呈することに。支部長はじめ編集委員と相談し、蔵増小学校の卒業生でもある木村さんから贈呈してもらうことにする。

2022.10.28 ○木村さんと蔵増小学校を訪問し、木村さんから渡辺校長に、3年生以上の児童と教職員分として「学校から見える山 2022」120部を贈呈する。

○戸田書店で委託販売をしてくれるという連絡があり10部届ける。

2022.12.01 ○こまつ書店から連絡あり、5部を納品する。

2022.12.22 ○粕谷さんに佐藤要さんから、南陽市立梨郷小学校の裏山である竜樹山付近からの展望図「学校から見える山 2023」のラフスケッチが届く。粕谷さん宅でこれからのことを相談する。2023年度の事業であり、時間的な余裕もあることから、編集委員会を開かずに粕谷さんと工藤の2人で「山名と標高などの確認」作業を行うことに。なお、今後は置賜地方の山並みに詳しい沼部夫妻からも助言を得ることとする。

2023.01.10 ○工藤が粕谷さんの所蔵の「日本山岳総覧」と国土地理院の2万5千分の一地形図により、ラフスケッチに記載されている「山名と標高等」について点検し、その後粕谷さんがさらに精査する。

2023.02.08 ○日向副支部長より、来年度の「学校から見え山」の資金について、「荘内銀行ふるさと創造基金」に申請することに事務局会で決定した旨の連絡がある。

2023.02.08 ○日向副支部長と鈴木支部長により、「荘内銀行ふるさと創造基金助成金申請書」を作成し申請する。申請助成金額60万円。

2023.02.25 ○支部役員会でこれまでの経過の報告と今後の進め方について検討する。

2023.03.15 ○野堀さんが事業報告書を作成し、「公益財団法人マエタテクノロジーリサーチファンド」に提出する。

2023.03.18～19 ○「天元台を滑る会」において、佐藤要さんから届いたラフスケッチの改訂版について、沼部夫妻と米沢山岳会の方々に見ていただきご意見等をいただく。



鈴木支部長から高体連に贈呈 2022.10.09



木村さんから蔵増小学校長に贈呈 2022.10.28

鳥海山へのスノーモービル乗り入れについて

＜日本山岳会山形支部の基本的な考え方＞

① 現状について

- ・積雪期の鳥海山で森林限界を超えてスキーヤーやスノーボーダーがスノーモービルで入山している様子が確認されている。自分のスノーモービルで、あるいは業者のスノーモービルで山に入り、大きなシュプールを描いて滑り降りる動画がインターネットで紹介されている。投稿者は、鳥海山はまるでヨーロッパの世界のようだと、そのスケールの大きさ、楽しさをアピールしている。
- ・そもそも、登山に対する考え方、登るスタイルも多様であり、時代とともに変化するのは当然のことである。スノーモービルで山を縦横無尽に走り回る姿は時代を反映している。
- ・このスノーモービルの隆盛は、自力で登るという従来のスタイルからすれば、まったくの別世界である。そもそもスノーモービルで山に入ることをもはや登山とは呼べないのではないかと思う。自力で登るのか、スノーモービルで登るのか。どちらを選ぶかは登山の目的や価値観に行きつくが、現実問題としても様々な問題を含んでいる。

② どのような問題があるのか？

- ・多くの登山者は自力で登り自力で下るというスタイルを大切にしてきた。自然環境に対する負荷を極力抑え、自らの知識・技術・体力・感性を高めることで、物心両面にわたって山の恩恵を享受するというスタイルである。特に積雪期の登山は、自然条件の過酷さから、格段の知識・技術・体力が求められる。それゆえ、雪山で出会える景色は何にもまして得難いものであり、畏敬の対象ですらある。
- ・このようなスタイルからすれば、スノーモービルでの乗り入れには大きく2つの問題があると考えられる。事故の危険性であり、もうひとつは自然保護の問題である。
- ・事故とは、われわれ登山者とスノーモービルとの事故である。登山者が疾走するスノーモービルに接触、衝突したら重大な事故になる。雪崩に巻き込まれる危険性も心配される。スノーモービル自体の問題（故障への対応、運転技術等）もあるだろう。
- ・もうひとつは、スノーモービルの自然環境に与える負荷の問題である。騒音・振動・排ガス等、従来、雪山が受けてこなかった外的な刺激を受けることになる。動植物への影響も心配される。動物の繁殖が順調に進むであろうか。鳥海山南麓のイヌワシの繁殖はどうなるだろうか。近年、繁殖が進んでいないという話も耳にする。この問題がより重要であると考えている。

③ スノーモービルの乗り入れ規制について

- ・鳥海山一帯は国定公園に指定され、自然公園法、山形県立自然公園条例等によって、5つの地区・地域に区分され、それぞれ保護規制が設けられている。具体的には、山頂付近の特別保護地区、その周辺の特別地域。この特別地域はさらに第1種から第3種の地域に細区分される。特別保護地区から下方に第1種、第2種、第3種の特別地域となっている。そして普通地域の5つである。
- ・特別保護地区の規制が最も厳しく、例えば、屋根・壁面等の色彩の変更も県の許可が必要であり、スノーモービルの乗り入れも禁止である。保護規制では「車馬等の乗り入れ」という表現になっている。問題は、特別保護地区に接続する第1種特別地域でスノーモービ

ルの乗り入れが容認されていることである。

- ・もうひとつの問題は同じ鳥海国定公園でありながら、山形県側と秋田県側とで対応が大きく異なっていることである。秋田県側には特別保護地域はないが、第1種特別地域へのスノーモービルの乗り入れは自主規制という形で禁止されている。山形県側は緩いのである。
- ・県議会でこの問題が取りあげられ、行政機関も対応しているが、まだ具体的な対策は打ち出されていない。
- ・この問題を取り上げたのは、日本山岳会の多くの会員にこの実情を知っていただき、意見、助言を乞うためでもある。この文章が、多くの会員の目に留まることを期待している。
- ・長年、積雪期の鳥海山の写真集を発表してこられた佐藤要さんは、スノーモービルの乗り入れについて、行政機関に意見提出を繰り返してこられました。日本山岳会山形支部も佐藤さんの主張を共有したいとの立場から、これまでの発言の中から一部を紹介します。さらに、この意見書に対する行政機関の回答も掲載します。

(文責 日向稔也)

鳥海山のスノーモービルについて、現状報告と意見

山形県知事宛の意見書

佐藤 要

拝啓

寒気の南下の度に山々の頂の雪が次第に下りてきて、冬がすぐそこまで迫ってきていることを実感するこの頃、知事におかれましてはますますご健勝のことと拝察いたします。

今年の春、河北新報の記事により鳥海山のスノーモービル走行が話題になりました。私は個人の立場で、県の担当者に現状と意見を提出してきた者です。近年、冬の鳥海山に登る度にスノーモービルを見かけることが多くなりました。2019年には、スノーモービルを使ってスキーヤーやスノーボーダーを運搬する業務を起業した集団が現れました。以前のように趣味で雪山を走り回るスノーモービル走行とは違う意味で、大変難しい問題がもち上がってきている現状があります。

春までに知りえた現状と私個人の意見について、みどり自然課の自然公園主査様宛に詳しく報告しました。スノーモービルの走行に反対意見を言うと、それは登山者の感情の問題に過ぎない、とよく言われます。自分が目標にする美しい雪山に、虫食い跡のようなスノーモービルの走行痕が縦横に刻まれた姿はできれば見たくない、というのが本音です。しかし、登山者を雪山に生息する小動物に置き換えて考えると、スノーモービルの騒音、排気ガス、走行スピードなどは彼ら小動物にとって生死を左右するほどの影響を与えていることが想像できます。スノーモービルの走行頻度が高い鳥海高原ラインは、イヌワシの営巣地からの距離が近い所で1.5 kmにあり、食物連鎖の頂点に位置するイヌワシの繁殖活動に大きな影響があると考えられます。スノーモービルの活動時期である2～5月は、イヌワシの繁殖期で

す。スノーモービルが日常的に走行し始めた 2013 年以降、イヌワシの幼鳥は巢立っていない、と聞いています。

「鳥海国定公園区域及び公園計画図」を見て驚いたのは、県境を境にして秋田県側が公園計画の範囲外になっていることです。以前から鳥海山は、秋田の山だ、山形の山だ、と言われてきたのですが、自然公園を守ることに県境は関係ないはずで、秋田、山形両県で協議を行い、自然公園計画策定をできるように検討してもらいたいものです。

自然公園法の中に、「車馬の乗り入れ」規制がありました。スノーモービルは車馬の部類だと思います。特別保護地区は車馬の乗り入れが規制されていて、特別地域は規制がありません。スノーモービル愛好家が法律を守っている、と主張するのはそれが根拠になっています。ただ、第一種特別地域は「特別保護区に準じて貴重な自然の維持を図る」ために指定されています。特別保護地区と第一種特別地域の線引きされた境で自然が大きく違っていつは無く、緩やかに続いていると思われま。その意味で第一種特別地域は「車馬の乗り入れ」が規制されるべきではないでしょうか。

自然公園法第七条に「国定公園に関する公園計画は、環境大臣が、関係都道府県の申し出により審議会の意見をきいて決定する。」第十三条「都道府県知事は国定公園について、当該公園の風致を維持するため、公園計画に基づいて、その区域内に特別地域を指定することができる。」という条文がありました。これは、国定公園の公園計画は、関係都道府県の意向により決定されるという意味と考えました。鳥海山の貴重な自然の維持を図ることを基調において、第一種特別地域の在り方を検討して下さることを期待します。

敬具

令和 3 (2021) 年 11 月 18 日

佐藤 要

山形県環境エネルギー部みどり自然課よりの回答

御意見のありました鳥海山は「鳥海国定公園」に指定され、山頂付近一帯はスノーモービル等の乗入れが禁止される「特別保護地区」に指定されていますが、それ以外は、乗入れが可能な地域となっています。

自然公園法における保護規制としては、規制が最も厳しい「特別保護地区」とは別に、スノーモービルの乗入れを禁止する方法がありますが、この場合、スノーモービルの走行が野生動植物にどのような影響を及ぼすのかについて科学的根拠が必要となるほか、土地所有者や管理者にも乗入れ規制の受忍義務が生じるため、これらの関係者の積極的な賛同が必要となりますが、現時点でこれらの関係者から、こうした意向は示されていません。

地元関係者からは、スノーモービルの走行により灌木等の損傷が生じている可能性や、イヌワシの生息への影響を懸念する声も寄せられています。自然公園の保護と利用を図るため、どのような対策や仕組みが可能なのか関係者等と情報交換や研究を行ってまいりたいと考えています。(2021 年 12 月 10 日 対応困難)

山形県のホームページより抜粋

日本山岳会山形支部及び会員活動記録

2022（令和4）年3月～2023（令和5）年3月

事務局

2022年（令和4年）

- 3月23日（水） 鳥海山スノーモービル乗入れ調査会（オンライン 支部長、事務局長参加）
- 4月9日（土） 2022年度日本山岳会山形支部総会（鶴岡市出羽庄内国際村）
- 4月23日（土） 月山春スキー（8名 姥沢集合後、荒天のため中止）
- 5月21日（土） 蔵王地蔵山害虫被害調査登山（13名 山頂駅-三宝荒神山-五郎岳-中央高原駅）
- 6月11日（土） 第1回支部役員会（ゆぼか）
- 6月18-19日（土日） 蔵王古道調査（8名 宝沢口-熊野岳 山形山岳会山小舎泊）
講話「蔵王古道について」講師 蔵王国定公園管理者山口勝美氏
- 6月15日-23日 アルパインフォトクラブ写真展（酒田市総合文化センター）
- 6月15日（水） 「遊佐町滝の小屋看板」（榎有恒元会長揮毫）を遊佐町が日本山岳会に寄贈
- 7月16日（土） 宮城支部との交流会（7名、宮城支部5名 蔵王刈田レストハウス）
- 8月11日（水） 第6回「山の日」全国大会歓迎フェスティバル（6名 やまぎん県民ホール前広場）
「学校から見える山」イラスト展示等
- 8月16日（火） 梅本幸巳会員、第54回日本水墨画展覧会文部科学大臣賞受賞記念祝賀会
（11名 大進坊）作品「森巖」（四曲屏風）
※8/30-9/1計画の「それぞれの上高地」はコロナ感染拡大のため中止
- 8月30-31日（火水） 有志企画 杳蔵山登山（7名 杳蔵山荘泊）
- 9月24日（土） 道智道下見（2名 白鷹町黒鴨-茎の峯峠-朝日町木川）
- 10月1-2日（土日） 公益清掃登山・芋煮会（14名 鳥海山 鶴間池、河原宿 山雪荘泊）
- 10月9日（日） 県高校新人大会にて、「学校から見える山2022」250部を県高体連登山部生徒・顧問に贈呈
- 10月15日（土） 第2回支部役員会（ゆぼか）
- 10月28日（金） 「学校から見える山2022」120部を天童市立蔵増小学校児童に贈呈
- 11月5-6日（土日） 支部晩餐会（12名 小野川温泉「山川」）
記念登山：兜山（5日）、秋葉山（6日）
- 12月3日（土） 本部年次晩餐会 佐藤淳志会員、永年会員表彰

2023年（令和5年）

- 1月19日-21日 樹氷原を滑る会（9名、ASC3名 蔵王温泉スキー場、ロッジスガノ泊）
- 2月13日-15日 有志企画 蔵王山小舎の集い（8名 小林政志前会長、山形支部会友入会記念）
- 2月25日（土） 第3回支部役員会（ゆぼか）
- 3月18-19日（土日） 天元台を楽しむ会（10名 天元台スキー場周辺、米沢山の会大笠山荘泊）

<編集後記>

今年度もどうにか支部報を発行することができた。執筆者はもちろん会員の皆さんの協力の賜物である。この冊子を編みながら感じたことを記しておきたい。

ひとつは、故菊地俊彦会員の追悼文を梅津博さんに依頼したことである。ご高齢なので執筆の依頼をためらったこともあった。会員名簿によれば、1931年生まれとある。満州事変の年である。負担をかけてしまったと心底思った。しかし頂いた文章はユーモア漂う矍鑠としたものである。ご家族の方にもずいぶん面倒をおかけした。感謝の気持ちはもちろんだが、頼んでよかったと思った。梅津会員にしか書けない大事な記録だと思う。

次は、鳥海山へのスノーモービルの乗り入れについてである。山形支部としてこのような問題提起を掲載しことは多くはなかったのではないかと思う（私は入会4年目。会員歴浅い者の勝手な想像であるが）。この文の内容については会員の皆さんのなかでも様々なご意見があると思う。ぜひご意見をいただきたい。個人の方で県の行政に影響を与えることはとても難しいことだとよく言われることである。そんな中で、独力で発信を続けられている佐藤要さんに敬意を払いたいと思う。これを手始めとして、この問題を継続して取り上げたいと思っている。

最後にお知らせ。支部報を年1回年度末に発行してきたが、今後、年2回に発行を増やすことを検討している。これまでは支部活動の年間のまとめとして支部報を発行してきたが、回数を増やすことで、行事に参加しにくい会員に少しでもタイムリーな情報発信を行いたいという趣旨である。皆様のご協力をお願いしたい。

2023年3月28日 支部報担当 日向稔也

